

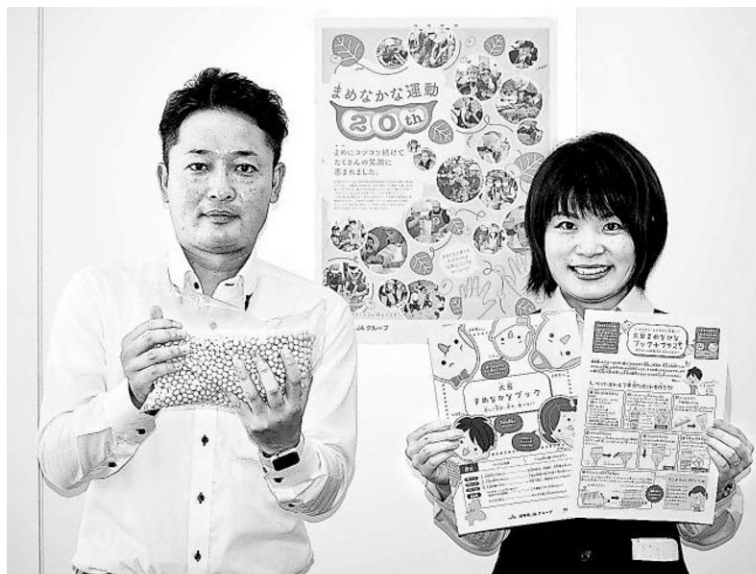
新型コロナウイルス感染症拡大の影響で今年は小学校での大豆の栽培活動が縮小する中、県JAグループは緊急対策として、家庭でできる大豆の栽培方法を紹介する小学生向けのリーフレット「大豆まめなかなブック」を作成した。食育の補助教材として役立ててもらおうと、各学校に活用を呼び掛けている。(村瀬真未)

コロナで総合学習減 学校に活用呼び掛け

大豆栽培 今年はおうちで JAグループ、小学生向けリーフレット作成

例年、県内小学校の多くは3年生の国語科の単元「すがたをかえる大豆」の学習などに合わせ、総合的な学習の時間を利用して大豆の栽培や収穫を行う。しかし、コロナによる長期休校を受け、学校再開後、教科の授業時間を確保するために学校での栽培を取りやめる動きが広がっている。同グループは食料自給率の低い大豆の消費促進も狙って、県内小学校を対象に2000年から種の無償提供やJA職員による出前

講座などの栽培支援活動「まめなかな運動」を実施。本年度は既に163校が参加を表明していたが、学校の畑での実施が難しくなり、種の扱いなどに頭を抱える声も多く寄せられていた。



家庭でできる大豆の栽培方法を紹介したリーフレットなどを示すJA岐阜中央会職員＝岐阜市宇佐南、県JA会館

リーフレットは2種類あり、A4判計8ページ。ペットボトル容器を使った手作りポットの作り方や栽培のポイントを示し、親子での栽培体験を促している。大豆の栄養素や調理法もクイズを交えて解説した。JA岐阜中央会協同活動推進課の下條克隆課長(42)は「家庭で手軽に栽培でき、枝豆としても味わえる。育てる喜び、食べる楽しみを経験してほしい」と話した。

リーフレットは運動への参加校に送付する。新規の申し込みは19日までに同会、電話058(276)5631。